（別添資料１）

事業所名 SAI宇士教室

支援プログラム（参考様式）

作成日 2025 年 3 月 20 日

法人（事業所）理念	『違いを違いとして認め、才能を生かし、人生を彩る』自分自身や他者の違いを認め、それを前向きに捉えることができるようになる。
支援方針	・応用行動分析を基本とした、行動の「きっかけ」「結果」となる部分へのアプローチを行う。 ・子どもの「できた」に注目し、自己肯定感や自己効力感を育む。 ・子どもをとりまく環境（保護者や先生方等）の中で積極的に関わり、一体感を持った支援を行う。

営業時間						送迎実施の有無	
	平日（月～金）	14 時	30 分から	17 時	30 分まで		◯あり　なし
	土・祝日 長期休暇期間	10 時	0 分から	15 時	0 分まで		

		支 援 内 容
本人支援	健康・生活	◎食育：ランチやおやつクッキング、さつまいもの収穫体験、魚釣り、いちご狩り等季節に応じた野菜や果物の収穫などの行事の開催。また、手作りおやつを提供する等の機会を通して、「食べること」への興味や意欲を高めています。「食」＝「生きる上での基本」であり、様々な経験を通じて「食」への知識や実際に触れたり様々な味覚を経験し、体験を行いながら、健全な食生活を送るきっかけづくりの一貫として行っている。 ◎季節：季節ならではの行事（お花見、果物狩り、プール等での水遊び、夏祭り、ハロウィンパーティー、クリスマス会など）、イベントの開催を行い、季節の変化への興味や伝承行事に参加をし、感性形成を育んでいる。 ◎生活：衣服の着脱や畳み方、靴紐の結び方、手洗い、排泄など日常生活における基本的な動作ができるように、身辺自立に向けた練習も行っている。 ・持ち物の管理：忘れ物が少なくなるように、自分の棚や荷物の片付けを促したり、自分で気付くきっかけ作りを行う等 ・気温や季節に合わせた衣服の選択や調整を学ぶ。 ・適宜、水分補給の声掛けを行い、熱中症対策も行いながら、自分の体調の変化にも気付けるように支援を行っている。
	運動・感覚	◎運動：OTの専門的な指導の下、運動遊び（体育館、教室内でのトランポリンやマット、庭でのブランコや雲梯、なわとび、ボール遊びなどの運動等）を対象児童に合ったプログラムを発達特性に応じた方法で組み合わせ、運動機能面や微細、粗大運動等、必要な身体機能の向上や更なる体力強化を目指し取り組んでいる。（月2～4回程度実施。必要に応じて都度実施。） ◎感覚：感覚過敏用のイヤーマフやパーテーションなどの配備を行い、発達特性に合わせた環境設定を行っている。学習時や課題を行う際には、椅子にセラチューブを装着し、必要な感覚刺激を得てより集中持続ができるよう環境設定も行っている。
	認知・行動	◎認知：作戦タイムでの、日付や天気などの把握と確認を行い、一日のタイムスケジュールの確認や活動毎の始まりと終わりの時間の確認を行い、感覚や数の認知形成を行っています。個別療育や小集団活動の中で行う、空間認知力を高める課題（体を使った遊び（鬼ごっこやキャッチボール等）や積み木。レゴブロックを使ったプログラミング）やビジョントレーニングも随時取り組んでいる。 ◎行動：「SAIでのお約束」と称した事業所での過ごし方のルールを各部屋へ掲示し視覚的にも分かりやすい共通認識できるようにしている。（①ふわふわ言葉でお話しましょう。②物を大切にしましょう。③お友だちと仲良くしましょう。） ・小集団でのゲームでの適切な行動形成、認知の偏りの配慮。「SST」を通して、社会的なルールや交通ルール等も学び、危機回避能力も育んでいる。 ・月ごとの行事予定表の配布や教室内への掲示。作戦タイムと称した一日の活動内容やの確認や活動のおおまかな確認を全体で行い、活動前後の時間の見通しを持って過ごせるようにしている。
	言語 コミュニケーション	◎言語：個別療育や小集団療育で言葉の語彙を増やし、自分の気持ちや思いを伝える為に必要な語彙力、表現するために必要な言葉の習得を行っていきます。また、学校の宿題や机上学習を主に行う「机の時間」「パワーアップタイム（学習）」では、学年相応の問題だけでなく発達特性にも応じた読み書きの練習を行っている。 ◎コミュニケーション：挨拶や対話を行うことで、言語の表出・受容を行い、コミュニケーションを図りながら友だちや周りの人との信頼関係築いていきます。個別療育や小集団療育で「SST」も行い、場面に相応しい立ち振る舞いやことばの表現力を強化、また双方向の円滑なコミュニケーションスキルの向上を促しています。（相手との距離感：パーソナルスペースの認識・アンガーマネジメント・気持ちのコントロール、クールダウンの方法等の練習も行っている。）
	人間関係 社会性	◎人間関係・社会性：集団活動を通して、協力することの喜びや達成感を感じてもらい、我慢すること、待つこと、ゆずり合う、思いやりの心を育み、丁寧な言葉で表出することを大切に出来るように支援しています。 ・活動に応じて一人ひとり役割分担を行い、責任感や達成感を味わえるよう自己が「できた」「次もやってみようかな」という自信に繋がるような機会をつくり、活動への意欲関心や自己肯定感を高めて行きます。 ・「みんなで遊ぼう」と称した「SST」やルールのある遊びを小集団療育や全体活動で行い、ルールを守って参加することや友だちや周りを意識してもらうなど社会性を育んでいます。 ・実際に起こりうる事象に対して、その場に応じた相応しい行動を一緒に子どもたちと考え、時には指導員と一対一でフィードバックを行いながら、思いやりのある言葉や行動の習得を目指しています。 ・公共施設や公共交通機関の利用を通した地域との交流。社会でのルールやマナーの習得を目指し、自立に向けた支援も行っている。

家族支援	・保護者会（茶話会） ・親子行事レクリエーション（夏祭り、BBQ、動植物園見学、親子凧あげ大会、ピザ作り体験、芋ほり体験等） ・定期面談	移行支援	必要に応じての情報提供・交換
地域支援・地域連携	・宇城圏域障がい者支援協議会こども部会（研修・事例検討会、情報交換会等） ・地域で開催される催しや展示会の見学や参加 ・地域の消防署、警察署の見学。地域の図書館などの公共施設の利用。 ・お買い物学習	職員の質の向上	・入社時に全職員が株式会社LITALICOの研修動画を受講 ・外部講師による研修会（ABA専門家）※月1回 ・外部講師による研修会（熊本保健科学大学教授：言語面）※月1回 ・その他：移行支援事業所見学、作業療法士（外部講師）の講演会などの研修及び勉強会の実施。
主な行事等	・お花見・七夕・夏祭り・親子BBQ・ミニ運動会・ハロウィンパーティー・クリスマス会・おもちつき体験・節分・ひなまつり ・外部講師による体験型活動（ピザ作り、勾玉作り、太鼓体験、スポーツチャンバラ、魚釣り等）・戸外体験学習（工場見学等） ・同法人内4教室合同イベント・保護者会（茶話会）・避難訓練		